

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000865		
法人名	(株)エレガンス福岡		
事業所名	グループホーム愛あい本社	(ユニット名	3F)
所在地	福岡市中央区福浜2丁目1-5		
自己評価作成日	平成23年8月15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都心に近く、恵まれた環境に位置し、西公園・大濠公園の近くにあり、美術館・博物館等の公共施設も充実しています。保育園・幼稚園・小学校・中学校・専門学校、また大型団地も隣接し交流や、地域と関わりながら過ごされています。中庭がある3階では季節の草木・花が咲き、開放感があり、家庭的な雰囲気の中お一人おひとりに合わせ、自分らしく過ごせる様、介護作成計画を立て支援し、笑顔・尊敬・感謝の気持ちで寄り添った介護の実践をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームを運営する櫛エレガンス福岡本社ビルの2階と3階がホームになっている。1階は法人本部、デイサービスを展開している。元々病院であったビルを改装しているため利用者の居室がそれぞれ異なり個性が表れていた。また、3階の中庭テラスは工夫して土や植物を植え、廊下にあるソファでくつろげるようになっており憩いの場になっている。利用者の平均年齢が90歳となり、職員は、理念にある「笑顔」で過ごしてもらいたい思いから、利用者ひとりひとりに楽しく笑い声がたせるよう一緒に調理をする、レクリエーション、買い物等生活していくことを通して日々実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時理念の唱和をし、地域との交流、笑顔・尊敬・感謝の気持ちで寄り添います、を共有し実践に繋げ、支援しています。	昨年の外部評価の結果を踏まえ「地域とともに笑顔・尊敬・感謝を持って寄り添います」との理念を職員で話し合っ作りあげた。朝礼や会議時に確認を図っており、また、ユニットごとに具体的に理念を実践するためのテーマを決め取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や、公民館の図書利用、幼稚園、小学校の運動会応援参加、大学の文化祭への参加、日々の買い物、散歩等地域との関わりを持ち、入居者様の交流の場としています。	地域の行事(防災訓練・運動会・学園祭等)への参加や近隣の宅老所、スーパー店員との交流を図っている。また、近隣の障害者との交流(一緒に作業し作品を創る)の予定もあり、ホームと地域の付き合いをさらに深めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流を通じて、事業所の夏祭り、冬祭り等に地域の方をお誘いしたり、ホーム内の見学の促し、運営推進会議の参加促し、認知症の理解に法人として努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議の参加呼びかけ、現状報告や各参加者との意見交換を行っています。地域情報等を得て改善点等に付いて話し合いサービス向上に活かすようにしている。	2ヶ月毎に開催し、利用者の状況、行事報告が行われている。マンネリ化や参加者が揃わないこともあるため、今後は3Fにある庭園を望みながら座談会のような雰囲気づくりに挑戦し、より意見をいただけるよう取り組んでいく意向である。	ホーム運営に関する理解をさらに深めながらメンバーが参加しやすい工夫や改善に向けての取り組みについて、今一度検討する機会を持つことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の福祉担当者や地域包括センター等の担当者と連携を図り、計画書の送付等がいつでも出来る様協力関係を築き、サービス向上に活かしています。	管理者及び職員は、権利擁護事業(社会福祉協議会)や区役所のケースワーカーと連携を図っている。また、相談事等、地域包括支援センターとも連携を図り利用者支援に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念「身体拘束ゼロ」を掲げ、外部研修、内部勉強会を行い、職員全体で取り組んでいます。、身体拘束が必要な場合は家族へ説明し書面にて同意得ています。	ホーム内研修や管理者の指導、職員間の気づき合いにより意思の統一を図っている。法人で身体拘束がやむを得ず必要な際は同意を得る書類があるが、まだ一度も経験した例はない。今後も「身体拘束ゼロ」に取り組んでいく意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修受講した職員がスタッフ会議等にて報告、勉強会の機会持ち、事業所全体で理解し虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修での勉強会を実施している。一人一人が適切なサービスを受けられる様支援している。又制度利用入居者においては、関係機関と話し合い、職員が把握、支援しています。	外部研修やホーム内の年間研修スケジュールに取り入れ、制度について学ぶ機会を設けている。入居する際に管理者から本人や家族に説明している。また、制度利用の必要性が具体的に発生した際には、活用できるよう体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書に添って説明、理解・納得を得て頂く様努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対して、来所時や電話連絡時の際に日常生活の様子をお伝えし、ご意見、要望をお聞きしています。また、解決に向けて、検討・対策に繋げています。	年2回の家族交流会や、訪問の際に意見や要望を表していただけるように努めている。出された意見や要望(例:主治医の変更等)には、検討を図った上で意向に沿うように努め、ホーム運営に生かしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員の意見を聞いています。スタッフ会議等で取り上げ全職員にて検討しています。	年2回個別に面談する機会を設け、運営に関する意見を聞いており、その他ミーティング時等においても聞いている。直近であった意見ではヒヤリ・ハットの検討の機会を増やしてはとのことから、事故防止・再発防止に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の意見の傾聴をこまめに行い、職場環境の改善に努めています。適宜職員の面談をし、職務の希望や意見を聞く機会を持っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集採用に当たっては、人事担当者や管理者で面接を行い、入社後は研修受講の促しをし意欲的に働けるような環境整備に努めています。	職員の募集・採用にあたっては年齢や性別等を理由に採用対象から外してはいない。笑顔と素直さ、安心感が与えられそうな方を重視し採用している。また、職員は調理やレクリエーション等の得意な分野を生かして勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修、校区内人権尊重講演会に参加、報告職員全体での勉強会をし積極的に取り組んでいます。	外部研修に参加し、参加者が職員ミーティングの際や資料を配布する等して伝達する形で教育や啓発活動に取り組んでいる。また、管理者は、言葉づかいや態度、身だしなみ等、申し送り時等に注意の喚起・指導をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修、勉強会の参加を募ったり、資格習得のための勉強会を行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の会議に参加し交流を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、面談体験入居を受け入れご本人意向確認を行い、納得してサービスを受けられる様職員全員で努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談・見学時の本人・家族の思い等を傾聴し受容に努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の要望を基に、適切なサービスの対応に努め関係機関の連携に努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様と職員は信頼関係を築き、日常生活の工夫や知恵を教えて頂き支え合う関係を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に近況報告し家族の思いを受け止め職員も家屋の一員として支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間」を定めておらず、馴染みの方との交流が途切れない様努めています。又家族との外出されたり、地域行事にも参加して頂いています。	訪問時間の制限等を設けずいつでも訪問者を受け入れている。また、今まで住んでいた家や家族宅等の馴染みの場所に外出する際には、家族の協力を得て今までの関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係性を把握しながら、職員が見守り円滑な関係が築けるよう支援しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への情報提供や、サービス利用中の関係性を大切に支援に努めています。必要に応じ、電話や、来所もお受けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日頃の思いを傾聴し、カンフレンスや家族に相談、ご希望に添うよう努めている。	利用者及び家族に機会あるごとに希望や思いを聞くようにしている。また、思いを外に出せない人については、問いかけるとはっきり言われることもあるため、常に声かけし、表情を確認する等、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、また入居後の会話の中から知りえた情報に基づき、職員全体で把握し共有している。日常生活の会話の中での希望の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子をこまめに管理日誌・経過記録・家族への連絡を記録し、職員への申し送り、検討しながら、把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議やケアカンフレンスにおいて、快適に過ごして頂く為に、家族や関係機関と話し合い計画作成しています。	計画作成担当者が本人や家族及びかかりつけ医等と話し合い、介護計画を作成している。毎朝のミーティング、3か月ごとに行われるモニタリングでは、各担当者に利用者の状況を聞いて見直しに生かしている。また、変化があった場合は現状に即したものを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきの実践、結果を経過記録、職員とのカンファレンスし情報の共有しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階、3階と年2回の家族交流会の実施、また1階ディサービスの行事参加等の活用、自社訪看、医療連携もしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集や、運営推進会議、お一人お一人、身体に合わせた地域行事の参加等支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望の医療機関利用でき、救急病院・訪問歯科・訪問看護との連携ができています。	在宅時のかかりつけ医を継続している利用者2名の定期受診は家族が対応しており、受診結果や薬の種類等は家族から連絡を受けている。また、緊急時や施設の協力医受診には職員が付き添い、結果は家族に報告する等、連携を密にしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師・自社訪問看護師との連携を図り、お一人おひとりの状態の変化や急変時の対処法を必要時相談出来ます。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当医師、ソーシャルワーカーと状況の把握、連携に努め、職員と共有、早期退院に向けて協働しています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常生活の中で本人の意向をお聞きし、家族のが安心できる様、職員全員にて、カンファレンス行っています。意向確認書・終末期ケア依頼書・の説明、理解して頂き終末期プラン作成、交付を行います。	契約時に終末ケアについて説明し、意向確認書を取り交わしているが、これまでに施設で看取りを行ったことはない。しかし、利用者の高齢化が進んでおり、その時が来た際はあわてないよう職員間で勉強会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル設置しています。24時間対応の協力医療機関との連携を図っており、全職員での勉強会等で緊急時に備えています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策マニュアル・緊急連絡網が設置されています。年2回の避難訓練が実施され、入居者の避難誘導法の一覧表提示している。法人全体での避難方法や、通路の把握に努め、防災講習会にも参加報告しています。	6月に行った避難訓練は、消防署に書類を提出して、同じ建物にあるデイサービスと同時に行った。訓練と伝えても、興奮する利用者もあり、一人ひとりの状況を見ながら誘導した。3階から階段での避難は大変なことが実感できている。地域との連携も図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員全体でプライバシーの確保に努め、尊敬の気持ちで接遇しています。職員退職時には、知り得た情報は書面により口外しない様指導しています。	利用者は人生の大先輩であることを常に意識している。部屋のドアを閉めることや、更衣時は肌の露出を最小限にすること、また、トイレ誘導は、他の人に気づかれないように耳元で行う等、プライバシーの確保に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望を基に、ご家族に相談しサービスの対応に努め関係機関の連携に努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活のリズムに合わせ、希望などを傾聴し柔軟に対応しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回、訪問理美容の提供や、更衣時身だしなみに気を使い、おしゃれが出来る様に支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成もお好みに添うよう考慮し、お一人おひとりの状態に合わせ、食事形態、盛り付けの工夫しています。近くへの食材買い物、調理、配膳等、能力に合わせ支援しています。	ユニットごとにメニューを作成し、買い出し等を行っている。食材を切る、つぎ分ける、テーブルを拭く等の役割分担ができている。また、朝食のパン、昼食のそうめんなど、希望に応じて対応している。利用者と職員は一緒に同じものを食べている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当職員が、食事量やバランスに考慮したメニューで水分、食事摂取量は毎食後に記録・把握し、十分に確保できる様検討しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし誘導、本人の能力に応じ、支援、必要時には訪問歯科往診、義歯は毎晩洗浄剤につけ置き、清潔に心がけています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めています。お一人おひとりの状態に合わせて誘導、配慮しながら支援しています。	常時おむつ使用者が2名、夜間のみおむつ使用者は2名いる。他の利用者も状況に応じて、尿取りパットの厚さ等を使い分けて対応している。排泄表を活用した早めのトイレ誘導により、おむつや尿取りパットの使用数を減らし、気持ちよく過ごしてもらうよう努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、排便パターンに基づき飲食物の摂取、予防として運動の促し、かかりつけ医との連携し排便コントロールの服薬支援も行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて、安全に気持ち良く楽しんで頂ける様支援しています。また、状態に合わせて、足浴や清拭をし気分転換をして頂いています。	日曜日以外は風呂を沸かして、入浴できるようにしている。数名の方は60分以上楽しむこともあり、平均で週2～3回入浴している。夏はシャワー浴であったり、失禁した場合等はその都度状況に応じて対応している。また、入浴を嫌がる場合には職員を変えたり、時間を変えたりして支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のリズムを把握し、安心して休息・安眠して頂く様支援しています。また生活習慣も考慮し、寝具を清潔に常に気を配っています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医・薬局との連携において、服薬ミスの無い様管理、投薬時には名前・日付けの声出し確認し心身の変化の把握・配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴やその方の能力に合わせ、出来ることの把握、楽しみごとの参加を促し気分転換して頂いています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や体調に考慮し、日々の買い物、季節に応じた外出を行事予定とし、地域とのふれあいを設けています。	食材、花、お菓子等の買い物は近くのスーパーや市場に職員と出かけている。ドライブや季節の花見(桜・コスモス等)、どんぐり拾い、海岸への散歩等、日常的に行っている。また、ファミリーレストラン等での外食時には、口紅をつける等、少しおしゃれをして出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月一定の小口金をお預かり管理、希望により買い物に出掛けられ、使える支援をしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやり取りや、希望により携帯電話にてご家族との会話を楽しまれる事の支援をしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては、生花や職員と入居者として季節ごとに作成したディスプレイや、行事時の写真の提示をし家族的な雰囲気に気を使い、居心地よく過ごして頂く様工夫しています。	職員が利用者と一緒に作成した季節の壁飾りや、行事の写真が和やかな雰囲気をだしている。中庭からの明るい日差しを受けて、ソファーでくつろいでいる利用者もあり、穏やかにすごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間に居心地の良いソファーを設置、中庭を眺められ、静かに過ごされたり、会話を楽しまれたり出来ます。廊下には、途中で休める安定した椅子を設置工夫しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や物を活かして、本人が落ち着いて、居心地よく過ごしていただける様配慮しています。	ベッド、布団、テレビ、タンス、三面鏡、仏壇、書籍、小物等、居室にある物品はすべて入居者の持ち込みである。欄間や床の間、備え付けの棚がある居室もあり、それらを利用して居心地よく過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者の居室には表札があり、トイレや浴室、洗面所には分かりやすく目印をつけ、また手摺りを付け安全に自立した生活が送れるよう工夫しています。		